



7 吊り橋の近くに咲いていたシャガの花 8 分水ビジターサービスセンターではさまざまな軽食を提供。写真は山菜ぶっかけそば、ごま塩おにぎり、国上だんご 9 平成21年に開山1300年を迎えた国上寺。上杉謙信が木造千手観音菩薩立像を信心していた話が有名。上杉景勝や直江兼続ゆかりの文書も残る 10 国上寺境内にある「五針掛の松」。弘法大師が唐から帰国する際、密教流布のため船中から投じた五針(密教の宝具)が国上寺の松に掛かったものと伝えられる 11 国上寺本堂脇の登山口

良寛隠棲の地

展望台の近くには、大きな吊り橋がある。山の緑と空の青の中に、吊り橋の朱色が目を惹く。「千眼堂吊り橋」というこの橋の名は、橋のかかる「千眼堂谷」から取られている。長さ124m、谷底までは35mほど。吊り橋の中ほどからは、山肌に絡みついて咲くフジが見えた。緑の中に浮かぶ優美な紫に見惚れる。

橋を渡りきった先の石段を降りて行くと、開けた場所が現れた。森の中、静寂に包まれたその空間に、ひっそりと五合庵は佇んでいた。この五合庵で、良寛は40歳のころから約20年間を過ごした。木造葺き屋根、6畳一間ほどの小庵で、質素な暮らしが偲ばれる。隣に良寛の句碑がある。

吊り橋を渡った先には、五合庵がある。江戸時代後期の禅僧で、詩人・歌人・書家としても知られる良寛ゆかりの庵だ。少し寄り道してみよう。

来た道に戻り、展望台から分水ビジターサービスセンターの方へ向かう。建物の前のテーブルでは、いくつかのグループが軽食を食べていた。立ち並ぶ「そば」「ラーメン」「おにぎり」といった幟に心惹かれつつも、そのまま国上寺に続く坂道を登る。

国上寺は1300年以上の歴史をもつ、県内最古の名刹。重厚な佇まいの本堂のほか、客殿、六角堂、大師堂、一切経堂、鐘楼堂、宝物殿などが立ち並ぶ。辺りは静謐な空気に満ちている。本堂脇にある登山口の鳥居を潜り、山頂を目指して出発した。

※ [訳] 私が庵で燃やして煮炊きするくらいは、風が吹くたびに運んでくれる落ち葉で十分間に合うことだ。私にとって、この山の中の暮らしは、物に乏しくとも満ち足りていることよ

4 五合庵は良寛隠棲の地として有名だが、元々は国上寺本堂を再建した萬元上人のために作られた庵で、萬元上人が国上寺から毎日米五合に相当する手当を給されたことからこの名がついた。現在の建物は、大正3年(1914年)に再建されたもの 5 五合庵の奥には、萬元上人の墓碑もある 6 五合庵の近く、ニット帽をかぶった小粋なお地蔵様がいた 7 吊り橋の近くに咲いていたシャガの花 8 分水ビジターサービスセンターではさまざまな軽食を提供。写真は山菜ぶっかけそば、ごま塩おにぎり、国上だんご 9 平成21年に開山1300年を迎えた国上寺。上杉謙信が木造千手観音菩薩立像を信心していた話が有名。上杉景勝や直江兼続ゆかりの文書も残る 10 国上寺境内にある「五針掛の松」。弘法大師が唐から帰国する際、密教流布のため船中から投じた五針(密教の宝具)が国上寺の松に掛かったものと伝えられる 11 国上寺本堂脇の登山口



1 千眼堂吊り橋は新緑の季節も素晴らしいが、紅葉の秋や雪降る冬もまた違った表情を見せてくれる。「新潟の橋50選」に選出 2 朝日山展望台からの眺め。天気が良い日は粟ヶ岳、守門岳、越後駒ヶ岳、中ノ岳、八海山、巻機山、谷川連峰、苗場山が青々と広がる様が見られる 3 吊り橋からは寺泊方面が見渡せる。5月は新緑の中に紫色のフジの花も見られる